

橋梁塗装（RC－I）の施工管理に関する講習会について

四国技術事務所

品質調査課 品質管理係長 平川 知巳

1. はじめに

平成24年11月29・30日、安芸市役所会議室において（一財）土木研究センターの片脇清士先生、安波博道先生を講師として招き、四国地方整備局職員約40名、自治体職員約30名が参加し、「橋梁塗装（RC－I）の施工管理に関する講習会」を開催しました。

橋梁塗装（RC－I）はブラスト作業を伴う塗替塗装で歴史も浅く、平成17年12月発行の「鋼道路橋塗装・防食便覧」により塗替塗装の標準塗装として規定されています。

本塗装は下塗りに有機ジンクリッチペイントを使用した塗装であり、亜鉛メッキと同様に鋼材に対して電気化学的防食作用を有するため防錆効果が優れています。しかしながら、ブラスト作業に於いて錆が残ると錆が絶縁体となることから十分な電気化学的防食作用が期待できず、また錆の中に内在する塩分が錆再発の原因となります。このことからブラスト作業に関する施工管理が重要となり、ブラスト作業の品質が塗装寿命に大きな影響を与えます。

本講習会は「ブラスト作業の施工管理の重要性」、「適切な施工管理の手法」を橋梁塗装担当職員に伝えることを目的とし企画しました。

2. 橋梁塗装（RC－I）の施工管理に関する講習会の概要

講習会初日は、「鋼製橋梁における防食技術について」「RC－Iの施工管理に関する留意点」と題した座学の他、「橋梁塗装に関する質問（相談）」を行いました。

「橋梁塗装に関する質問（相談）」では、「塗装設計の手法」等の橋梁塗装に関する質問の他、「橋梁補修に関する設計手法」等の多種多様な相談がありました。

講習会2日目は塗替塗装工事を実施している整備局が管理する国道55号入木橋において、「ブラスト施工に関する施工管理のデモンストレーション」を行いました。

「ブラスト（素地調整1種）と素地調整3種の違い」、「十分に除錆されたブラスト処理面と不十分なブラスト処理面の違い」、「ブラスト施工困難箇所の確認と対処手法」の説明を行い、参加者は熱心にメモ・ビデオを撮りながら聞き入っていました。



写真－1 座学の状況写真



写真－2 デモンストレーションの状況写真

講習会のアンケートでは、「非常に参考になった。参考になった。」が97%占め、また「教科書に載っていないことを教えて貰った。」「本県にとって橋梁塗装（RC－I）の必要性を感じた。」「事前に質問（相談）が受け付けられ、全ての質問にきちんと回答して頂けたことがよかった。」等の感想があり、「現場の困っている点と講習会の内容が一致した結果」であると思います。

今後も、現場のニーズを的確に把握し、その期待に答える講習会を企画したいと思います。